

令和6年度 徳島県立文書館協議会 会議録

I 日時

令和6年9月12日（木） 10:00～11:30

II 会場

県立文書館2階講座室

III 出席者

【委員】10名中7名出席

衣川委員、須藤委員、小笠原委員、田中委員、船井委員、別府委員、松山委員

※欠席委員 小部委員、西本委員、原田委員

【事務局】

館長、副館長、館員5名

IV 会議次第

1 開会

2 文書館長あいさつ

3 議事

(1) 令和5年度事業実績について

(2) 令和6年度事業計画について

(3) その他

4 閉会

【協議の概要】

- (1) 令和5年度事業実績について
- (2) 令和6年度事業計画について

○委員

令和5年度の事業実績の1ページの下企画展示事業のところ、それぞれ期間が書いてあるあとに「(19日)」と書いてあるのはどういうことか。

○事務局

これは、令和4年度から実施して令和5年度に係っている事業の令和5年度の開催期間が19日ということ。実際の期間はもっと長い、令和5年4月から期間最終日の4月23日までの期間が19日ということである。

○委員

資料2の企画展示事業が、前年度が58万7千円ということで、だいぶアップしているように思う。すごくいいことと思うが、急に額が上がっているのはどうしてか。

資料収集整理が同じくらい減っているの、今年度はこちらに力を入れようということ、でスライドしているのか？

それと、システムのこと。データそのものが原本となるということで、かなり重い事業になると思うが、今年度事業で構築して、令和7年3月から実施ということだが、これに対してシステムに精通したような人が1人就くという予定はあるのか。

○事務局

文化の森が来年度35周年を迎える。5年ごとに周年事業を企画してやっている。プレ35周年事業を文化の森全体で計画していた。今やっている「恐竜展」、続く美術館の「ガレ展」がプレ35周年的な位置付けになっている。それ以外の館も事業を構想していたが、最終的に博物館の恐竜展と美術館のガレ展だけが独立した。文書館でもそれに連動する形でいつもと違う企画を考えていたが、その分を通常の(企画展の)予算に付けていただいたので、いつもより予算が増額になっている。それにより100万円ほど追加で予算が付いた。

システムの方、専門的に携わる者について。システムの開発は専門業者に委託している。できあがれば、保守管理の契約をして運用を業者をお願いする。そのため、まずはメンテナンスとか運用は業者に委託する。できれば職員にも詳しい者が常にいればいいが、難しいため業者と密に連携をとりながら、ということになる。

ただ、昨年度から会計年度任用職員でシステム系の技術的な部分に詳しい者が配置されているので、その職員がいる間は、システム系の技術的な部分も見てもらえる。開発も(その職員と)一緒に進めており、この職員の持てる知識とか経験を活用して、まずはシステムを構築していきたい。

○委員

3点ほど、質問させていただきたい。

1点目、資料2の「新文書館システム構築事業」。6月3日の徳島新聞に、文書館の記事が大きく出ていた。その中で、「対応迫られる県立文書館」ということで、「電子データ対策」と「収蔵場所の確保」が見出しに出ていた。「紙よりも電子データの方が保存が難しい。電子データの消失や改ざんのリスクを抱えるほか管理システムを随時更新しなけ

ればならないためだ。」という記事になっている。今回の1,498万5千円の予算でこの問題は完全に解消されるのか。

2点目は、同じくここにあります「収蔵場所の確保」。去年のこの会議で私も質問させていただいたが、収蔵場所の確保についてその後何か進展があったのかどうか。

最後に3点目、7月2日の徳島新聞には「県立文書館・博物館、文化財保存で対応苦慮」という記事がありまして、「所蔵品の害虫やカビをガス状の薬剤で駆除するくん蒸を今後どうするかで、徳島市の県立文書館や県立博物館が頭を悩ませている。長年使っているくん蒸ガスの販売が今年度末で終了する。代わりになるガスの使用のめどが立たず、別の方法も検討しているが、十分な効果を得られるかは不透明。貴重な文化財の保存が危ぶまれる状況となっている。」との記事があった。今日の資料でも実績の5ページ6ページに資料収集整理のデータを入れていただいている。古文書が他の文書に比べるとめっちゃくちゃ増えている。ということは、昨年度もそうだし、今年度以降もくん蒸の問題が残っていると思うが、新聞記事以降、くん蒸について、文書館も「検討する」「情報収集している」とあるが、何か進展があったのか。

○事務局

電子公文書のシステムの件、電子データの方が保存が難しいことについて。一見すると保存したら終わりなので、紙より楽であると思いがちだが、確かに手作業としての手間は電子の方がデータを移管してきて保存すれば終わりなので、紙のように補修したり、きれいにしたりという手間は無いという点では便利だが、電子であるが故に紙では起こりえないであろう、改ざんやデータが全部消えてしまうというリスクが紙と違って大きい。そこをどうやって防いでいくかというのが電子公文書を保存していく上で重要となる。

今構築しているシステムは、データを保存するところは、文化の森内にシステムと電子公文書等を保存するためのサーバーを新たに設置して、そこに全部保存していく計画としている。そのサーバーは外部のネットワークとは切り離れたところに設置するようにしているので、直接外部からサーバーに接続することはできないように構築する。公開するにあたっては、本体データを保存している所のコピーデータを外部と接続する部分に設け、公開するようにしているので、本体部分には外部から侵入できないような作りにする計画になっている。そういう所でセキュリティ対策を考えている。それと、セキュリティ対策として、人的ミス防止については、職員の操作研修により確保していく。

システムの随時更新が新聞で触れられているが、デジタルなので、できあがってそれを何十年も使えるということにはならない。制度も変わっていく部分もある。デジタルデータにしても、いろんなデータが出てくるし、バージョンも変わっていくので、それらに対応できるよう、まずは標準的なデータ形式で保存する。システム自体も変更や更新を見越した形で、汎用性の高いもの、改修や機能追加、変更のしやすいようなシステムになるよう設計をしている。そうして将来のデジタル技術の進展にも対応できるようにしていきたい。

収蔵場所の確保について。なかなか難しいところであるが、現在の収蔵庫の公文書の整理をし直し、当座入ってくる文書の受入れができるスペースを確保している。そうはいつでも毎年次々入ってきて、永久保存であるので将来的にどこかの段階でいっぱいになってしまうため、収蔵スペースを引き続き探している。行政財産で未利用のものがあれば、そ

れが有用であるため、管財課や行政財産を管理している部署に問い合わせるなどして情報があればいただけるようお願いしたりして探している。

くん蒸について。現在、資料を受け入れる際、虫やカビを殺菌するため、エキヒュームSという薬品を使ってくん蒸をしている。ところが、このエキヒュームSの製造メーカーから、今年度限りで製造を中止するとの報道がなされた。それ以後、代替策を検討しているところ。

他県でも同じ状況になっているところが多いだろうということで、各都道府県の公文書館に照会をかけ、代替策がどのように検討されているのか調べてみたが、決定的なものはなく、皆さんお困りで、「検討している」というところが多かった。エキヒュームS以外の生物被害対策を取っているところもあるが、これだったら確実というものはなかなか無く、館によって、二酸化炭素、窒素ガスなど、エキヒュームSではないガスを使ったくん蒸をしている所や、収蔵庫の清掃とか、温湿度管理とか、害虫のトラップをしかけたりとか、収蔵庫の管理を徹底することで生物被害対策をするなど、各館様々である。

そういう中、当館としては、現状、施設に適応しやすいものとして、二酸化炭素か窒素によるくん蒸、エキヒュームSに変わって他の気体を使ったくん蒸をするか、もしくは冷凍処理、これは冷凍庫の中に入れて低温で防虫・防菌する、そのどちらかを考えているところ。早急に対応が必要であるため、来年度の予算化に向けて、今後具体的に進めていきたいと考えている。

○委員

今の問題は、要するにガスのくん蒸の場合、横との連携をしていただいて、ということしかないということか。

○事務局

エキヒュームSの利点に、カビを殺せるというところがあったが、そこまでできる薬品というのが、人体に安全とか、使いやすさとか、総合的に勘案して、なかなか無い。これ（エキヒュームS）がすごくよかったということで、これに変わるものとなると、二酸化炭素か窒素があり、人体に影響はないし、扱いやすいが、カビの活動を抑えることはできていても殺すところまではいけないとか、冷凍にすると処理に時間がかかるとか、一長一短。これらを考慮しながら進めて行きたい。

○委員

場所の問題については、時間があれば、この後収蔵庫も見てくださいとのこと。

○委員

デジタル公文書について。保存の形式やシステムに関して、全国的に統一しているものがあるのか、それとも県独自で開発しないといけないのか。

○事務局

標準的なフォーマットとしては国立公文書館が設定しているものがあるので、それに習っている。例えば、文書はMicrosoft Wordのこの保存形式とか、PDFとか、表計算ですとMicrosoft Excelのこの形式とか、画像であればこれ、とか、ある程度決まっているものがあるので、それに準じてやっている。

○委員

改ざんやコピー防止はできるのか。

○事務局

改ざんやコピー防止機能をどこまで整備できるかということについては、技術的なものは、業者と打ち合わせしながら、ということになる。まずはデータを安全なところに保存するということ考えている。

○委員

もう一点、企画展について。だいたい毎年4回されている。期間もある程度決まっているようだが、期間の決め方の基準はあるのか。

○事務局

展示は年4回やっている。最初からこれでやっていて、基本的には春夏秋冬で年4回。一つの展示は3か月、その展示の期間に次の展示を検討、用意をしている。1日で展示替えをして、その次の展示を始める、というのを34年間続けてきたというのが、一つの流れになっている。

日程を変えることを何度か考えたこともあるが、1年間の流れを考えると、4月末、8月頭、10月末、1月に変える、というのが、その中にゴールデンウィーク、夏休み、冬休みとか、実際にお客様に来ていただけそうな時期を狙って展示ができるということで、この時期に設定している。

○委員

昨年度と今年度の企画展の内容を比較してみると、年度の初めがソフトな内容で、夏休みを含む2番目が硬派な感じとなっている。兼ね合いも考えているのか。

○事務局

4月当初は職員の異動等もあり、最初からがちょっとした展示を組むのが難しいところもあるので、文書館にあるもので見やすいものを前提としているので、写真とかチラシというものになる。8月になると蓄積ができるので、調べたものを展示するという、そのような流れになっている。

○委員

夏休みに硬派でないものというご提案か。

○委員

館の事情がおありであれば尊重すべきと思います。

○事務局

ただ、なるべく、とっつきやすい表題を考えている。例えば「徳島が高知県だった頃」。「そんな時あったの。」というような感じで来ていただく。内容は、古文書中心で硬派な所はあるが、それでも絵図等を活用しながら一般の方にもなるべく見ていただけるよう考えてやっている。

○委員

企画展には解説はありましたか。ありますよね。（展示を）見たら感想をしゃべりたくなる。ざっくばらんに語れて、いい勉強になったなという気持ちで帰る。今年のテーマも、庶民の日常の気持ちとか雰囲気寄り添ったもので、すごくいい。是非聞きたいと思いました。

○委員

私も今年のタイトルはキャッチーでいいなと思っている。

館長から、酷暑、猛暑との発言があったが影響はあったか。資料1 ページ目の人数が減っている。これは令和5年度であるが、影響があったのか。

○事務局

館の毎月の入館者のデータは減っている。博物館2階のU字型展示ケースを見た人の人数も当館の入館者数に大きく関わる時がある。それが5年度に関しては、回数、期間が短かったかもしれない。酷暑というのは、夏平均値の入館者数が少ない時もあるので、暑さも影響したかもしれないが、詳しく検証はできていない。

○委員

ボランティアを冬に変えたとか。対策を考える必要もあるのかな。でも学校は夏休み8月7月なので難しそう。

○委員

去年も質問したが、出前講座について。去年渋野小学校に行ったらしいが、私も去年言ったように鳴門の撫養小学校。撫養は昔から歴史の町なので、子どもたちに知ってほしいなと思って、一児童クラブの運営委員長なのですが、聞いてみた。やはり、子どもたちにそういうことを伝えたい。「それはいいこと」と言いながらそのままになっている。でもやはり、ここでやっている以上、やってほしい。例えば小学校の中でもいいし、児童クラブ、休みが長い時、猛暑で外にも行けないし、校舎の中でやっているのも運動場も自由に使えないので。そういう知識を子どもの時に教えてもらったらいいのではないかと考えて、自分たちの住んでいる町を紹介したいと思って、この場でお頼みしてもよいか。

○事務局

具体的なご連絡をいただいたらそこから動き出す。小学校なり、児童クラブから問い合わせの電話をいただき、どんな内容をしてほしいと言っていたら我々で考えます。

○委員

いろいろ質問したかったが、みんな質問してくれたので。くん蒸ガス、収蔵場所、電子データの消失、改ざんの問題。お答えもいただいた。

全国の文書館の中でも展示とか教育、普及事業を多くやっている館だと思う。特に展示については、展示替えを月曜にやって結局一年中展示室が開いているところもなかなか全国的になく、頑張っておられると思う。展示解説は（一つの企画展の中で）3回やっておられる。展示解説は三つ中身を変えている。それはすごくいいと思っているんですけども逆に言うと三つ聞けない人もいると思う。全体像を知りたいという人もいるのではないかなと思う。その辺の感想なんかを聞いているのであれば教えてほしい。それから展示解説三つを1回は平日にしている。県内の博物館や全国をみても、大体土日にするんですけども、僕は平日を1回入れているのは、すごく面白いと思っている。平日にやるメリット、反響を教えてください。

それと学生ボランティアの受け入れ、3名の学生が参加とあるが、小・中・高・大のどこか。

○事務局

大学生。

○事務局

展示解説のこと。3回とも内容は少し違うが、必ず1人は全体の内容 一展示の全容、

概要一、を説明する者は1人いて、あと担当した職員が担当した展示物に関して掘り下げるといって構成している、全体像は3回ともお話している。この展示物を担当した者の話、違う展示物を担当した者の話、という形で3回とも違うということになっているので、「ここの展示物の話を聞きたかったのに今日はしないの」ということはあるが、全体を担当する者や、展示の主担当者が、ある程度その担当者の話を聞いていたり、図録の編集の中で内容を確認したりしている、担当者ほどは深く話せないが、その日を担当した者が、補足説明をさせていただくということで補っている。1時間という短い時間の設定なので、いろいろ詰め込むと超過してしまうので、残ってお話をさせていただく方にはそのように補っている。

実施日については、以前は土日か祝日で3日間していたが、土日には来られない、平日しか来られない人もいないのではないか、平日の方が時間を使いやすい方もいるのではないかと考え、ここ3年くらい平日も曜日を交えながら、手探りではあるが、平日も入れた実施日としている。大きく下がるかと思ったが、意外と人数には増減がなく、平日開催でも一定数の方は来ていただけるので、平日を設定しても間違いではなかったと思っている。

○委員

本日その他があるので、まずそちらを説明していただいて、後で全体の質問としたい。

(3) その他 (文書館の改修工事について)

○事務局から説明

○委員

見通しとして、休館するとすればどれくらいになりそうか。

○事務局

工事の仕方にもよると思うが、部分的に使えるということもあると思う。

○委員

全面休館ではないのか。

○事務局

外壁とか屋上は一気にするだろうが、内部は部屋ごとにしていくのではないかと考えている。そうであれば、不便かもしれないが、一部の利用はできるかもしれない。図書館と違い、自分で資料を取ってくる施設ではないので、別の部屋を代用して利用することはできるのではないかと考えている。何か月も休館ということはないと思っている。

○委員

過去の歴史の中で一番大きな改修工事。

○事務局

足場を組んで行うような工事は今まで無かったと思う。

○委員

その間は講座ができなくなるのか。

○事務局

中身がはっきりしないのでわからない。どの時期にどういうふうになるか決まらないう。今年度の図書館工事を見ると、ある程度の日数で閉館もあり得るかと思っている。

○委員

予定していた事項は以上だが、運営全般に関するご意見などありましたらお願いします。
(特になし)

意見も出尽くしたようですので、議事を終了する。